

7. 教育センター

教育センターは平成18年4月1日より大学2号館地下1階にて本格的活動を開始した。当センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。10月1日からは、初期臨床研修関係業務が附属病院管理課より業務移管がなされた。

平成18年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として下記事業を実施した。

- 1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成18年度には、本院4回(371名)、青戸病院2回(137名)、第三病院2回(181名)、柏病院2回(166名)合計10回、855名の参加を得て、参加者の感想文を分析して理事会等へ報告を行なった。また、初期臨床研修医には、本ワークショップ参加を研修修了の必須事項としており、医師としての医療安全に対する意識の向上に努めている。その参加者数は平成18年度においては、81名(4病院合計)であった。

また、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、テレビ会議システムを利用して、4附属病院を繋いで、テレビ会議にて4病院リスクマネジメントを年4回(7月、11月2回、3月)支援した。

- 2) 人材育成システムの構築については、教員評価委員会(渡邊 直熙委員長)と連携し当センターが主管している教員評価データベース委員会(福島 統委員長)において、データベース開発を行なっている。

開発においては、個人に焦点をあてた教員評価システムの構築を進める方針のもと、ReaD(独立行政法人科学技術振興機構が管理を行なっている研究開発支援総合ディレクトリで、目的は、産学官連携、研究成果の活用、および研究開発の促進に資することを目的として、国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に収集・提供しているサイトを指します。)と連携して、教育・研究・臨床・管理運営の4項目について比重の配分を自己申告し、各自の資質・指向を明らかにした上で評価を受けるシステムを構築するために、データ収集項目の洗い出し、及びデータ管理部署との調整をおこなった。

- 3) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を利活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、地域医療連携フォーラム2回(6月、10月)、他地方公共団体やNHK放送博物館、学会等共催で、公開講座を開催支援した。これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、今年度からは、日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた内容を、中学生・高校生を対象に、研究者がプロデュースする丸1日の体験・実験・講演などを通して、いろいろな疑問に答えるとともに、現在、活躍されている研究者と大学の最先端の研究成果の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室~KAKENNHI」の下記2事業に取組み、好評を得た。

- ① 高次元医用画像工学研究所では、小中高の参加者23名で、「からだの中への旅、そして未来の医療への旅」
- ② DNA 医学研究所器官発生研究室では、小中高の参加者26名で、「動物の発生を観てみよう 一遺伝子の働きと動物のからだ作り一」

平成18年度公開講座実績

公開講座名	開催日	参加人数	主催・場所
第19回青戸病院公開健康セミナー 「これでいいのか？ あなたの生活習慣」	2006年6月3日	市民一般 161名	青戸病院 亀有地区センター
第8回地域医療連携フォーラム 「身近なアレルギー性疾患について 考えよう」	2006年6月10日	市民一般 73名	柏病 院
第23回第三病院公開健康セミナー 「白内障の早期発見と治療」	2006年6月24日	市民一般 61名	第 三 病 院
日本老年精神医学会 慈恵医大共同主催 「健やかな老いをめざして」	2006年7月2日	市民一般 320名	柏病 院 ア ミ ュ ゼ 柏
愛宕山みんなの健康教室 「ヘルペスウィルスと皮膚の病気」	2006年9月26日	市民一般 24名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放送博物館
愛宕山みんなの健康教室 「おしっこの出具合と健康」	2006年9月27日	市民一般 22名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放送博物館
愛宕山みんなの健康教室 「今から始められる糖尿病予防」	2006年9月28日	市民一般 18名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放送博物館
愛宕山みんなの健康教室 「メンタルヘルス（心の健康）につ いて」	2006年9月29日	市民一般 23名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放送博物館
第9回柏病院地域医療連携フォーラム 「知って納得！メタボリックシンド ロームを予防しよう」	2006年10月7日	市民一般 145名	柏病 院
第24回第三病院公開健康セミナー 「小児の発熱について」	2006年11月3日	市民一般 35名	第 三 病 院
第20回青戸病院公開健康セミナー 「“痛み”から解放されるさわやか ライフ」	2006年11月4日	市民一般 98名	青戸病院 亀有地区センター
慈恵医大アトピー性皮膚炎フォーラム 「アトピー性皮膚炎の克服に向けて」	2007年1月13日	市民一般 134名	慈恵医大皮膚科学講座 慈恵医大
愛宕山みんなの健康教室 1) 高血圧と心臓病、 2) 高齢者の運動療法	2007年3月3日	市民一般 62名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放送博物館
第25回第三病院公開健康セミナー 「食べるリハビリテーション」 —近頃食べてむせませんか—	2007年3月3日	市民一般 50名	第 三 病 院

- 4) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成15年度採択事業と平成17年度採択事業の推進と、現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の「ニーズに基く人材育成を目指した e-Learning Program の開発」に応募し、「卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」の課題にて採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

「大学に蓄積された卒前教育教材を地域医療者のための生涯継続学習教材につなげていくことが大学の知の社会還元の一つであると考え、平成8年度からのカリキュラム改訂成果である平成15年度と17年度に特色ある大学教育支援プログラムに採択された授業実践を電子教材化し学生の卒前医療者教育教材としてだけでなく、広く地域医療者への生涯継続学習のための教材として e-Learning のシステムを用いて自己学習の環境の整備を行うことを目的としている。

医療者は日々の実践の中で絶えず、自らの手技を見直し、正していくことが求められている。コミュニケーションや診療技能学習において、学習者自らの実技を自ら観察して振り返るといいう「振り返り学習」を可能にする必要がある。この「振り返り学習」をまずは、イントラネットで学生教育に実践し、その成果を e-Learning に応用し「振り返り学習」の環境を生涯学習者にも提供していく。」

- 5) 医学教育、看護教育の支援については卒前・卒後教育の改善に関連して、スキルス・ラボの積極的な利活用を図ることと全学で使いやすい施設にすべく、イントラネットを利用しての施設・機器貸出と申込、使用報告書の提出を行なうように整備した。

また、卒前教育関係では、GKT（キングス大学）から、Prof. Jones を招聘した。Prof. Jones は、Department of General Practice and Primary Care の主任教授で英国での General Practitioner（GP）教育について学内講演会を行なっていたいただき、英国 GP オフィスにおける医師、看護師、診療技師、医療事務員がチームになって、日常診療を行なっていることの説明と GP オフィスに学生が実習を行なう意義について学内において、討論を行なった。

- 6) 卒後臨床研修の支援については、卒後教育支援室と連携を図り、2回の研修指導医講習会を開催し、合計で61名が修了した。

- ・第2回研修指導医講習会（平成18年11月25日（土）、26日（日））修了者数34名

- ・第3回研修指導医講習会（平成19年2月17日（土）、18日（日））修了者数27名

なお、当該講習会は、厚生労働省の開催指針に基き開催し、修了者には修了証として、厚労省医政局長印と院長印の両者印が押印されたものが授与される。

その他）教育開発室に、看護学科の大石 杉乃准教授が8月30日付けにて就任（兼任）した。